

郷土資料館だより

Vol.39 No.2
2016.12.15

企画展「源頼朝と伊豆—史跡と伝承—」報告

- 開催期間 平成28年7月16日(土)～9月22日(木・祝)
- 入場者数 14,129人
- 会場 郷土資料館1階企画展示室
- 展示資料数 121点
- 関連事業 ふるさと講座「頼朝ゆかりの地巡り① 三島編ウォーキングツアー」参加者29人
ふるさと講座「頼朝ゆかりの地巡り② 函南・伊豆の国編バスツアー」参加者22人

鎌倉幕府を開いた源頼朝は、若き日のおよそ20年間を流人としてここ伊豆地域で過ごしており、当地には頼朝に関する伝承や史跡が数多く残されています。

今回の企画展では、市制施行75周年と伊豆の国市との「歴史・文化交流及び協力に関する協定」締結1周年を記念して、三島市及び周辺地域に伝わる頼朝に関する史跡や伝承地をとりあげました。

頼朝が配流されたと伝わる伊豆の国市から、頼朝が百日祈願に通ったと伝わる三嶋大社までの下田街道沿いの寺社をはじめ、伊東での悲恋、北条時政・政子との出会いなど、平家打倒の挙兵に至るまでの頼朝の人生を、史跡・伝承地の写真パネルや浮世絵、考古資料などで紹介しました。あわせて刊行した史跡めぐりにぴったりの冊子も好評で、ぜひ現地を訪ねてみたい、というお声もいただきました。



企画展「三四呂人形展」開催のお知らせ

- 開催期間 平成29年2月4日(土)～5月28日(日)
- 関連事業 展示解説 4/29(土・祝)、30(日)、5/27(土)、28(日) 11:00～、13:30～各回45分程度

昭和初期に活躍した三島出身の人形作家、野口三四郎のぐちさんしろうによる張子人形(三四呂人形)は当時、たいへん高い評価を得ていました。しかし、本人の早逝などにより作品数も限られ、また、お土産の三四呂人形(複製品)が大量に製作されたため、近年は本物の三四呂人形を知る人も少なくなってきています。

そのような中で、最近、北上くらしのサロンによる石膏製の複製三四呂人形の製作や三島商工会議所による3Dデータを使った複製品やグッズ(ストラップ)の製作が進められるなど、三四呂人形を郷土の宝として後世に伝えていく動きが出てきています。そこで、企画展では現存する三四呂人形や水彩画など野口三四郎の作品を紹介するとともに、現在行われている複製品づくりについても紹介します。

3Dデータ化による複製品の作製



沼津工業高等専門学校での3Dスキャン作業と3D画像(画像提供 沼津工業高等専門学校)



3Dデータによる複製品
(三島商工会議所蔵)

三四呂人形



里子



春日庭(個人蔵)

富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「駿東・北伊豆の戦国時代」 三島展「北条五代と山中城」開催中

- 開催期間 平成28年10月15日(土)～平成29年1月22日(日)
- 会場 郷土資料館 1階企画展示室
 - 沼津展「駿豆騒乱 国境の攻防」 会場:沼津市明治史料館
開催期間:平成28年11月12日(土)～平成29年1月29日(日)
 - 富士展「三国同盟とその周辺」 会場:富士山かぐや姫ミュージアム
開催期間:平成28年12月17日(土)～平成29年2月26日(日)
- ※3館ではスタンプラリーを実施中! 3館すべてのスタンプを集めた方には特製戦国シオリ(PP製)をご用意しています。
- 主催 富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

上記3館では、「駿東・北伊豆の戦国時代」を共通テーマとした企画展を開催中です。当館を会場とする三島展では、戦国大名北条氏と三島との関わりを示す資料を展示しています。

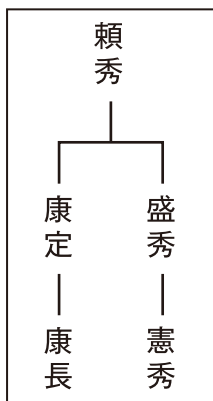
三島を含む伊豆国は、15世紀末の伊勢宗瑞(北条早雲)の伊豆乱入以来、戦国大名北条氏の領国となり、本拠地小田原の西の防衛を担う地として箱根西麓に山中城が築かれました。群雄割拠の時代にあって、5代約100年ものあいだ関東に覇を唱えた北条氏ですが、天正18年(1590)豊臣秀吉の進攻を受けて滅ぼされるに至り(いわゆる小田原合戦)、山中城は両軍が全面衝突した地の一つとなりました。三島展では、そうした北条氏領国としての三島の歴史について、特に山中城の戦いに焦点をあてて紹介しています。



山中城兵糧庫跡より出土した毘沙門天像(装飾用具)

箱根神社に伝わる山中城城将松田康長の書状

天正18年(1590)3月29日、北条氏討伐に乗り出した豊臣秀吉の軍勢と、本拠小田原への侵入を防ぐため山中城を守る北条方の軍勢とが、東海道箱根路の西麓に築かれた山城・山中城で衝突しました。いわゆる「山中城の戦い」です。約7万の豊臣方の軍勢に対し、4千ほどであった北条方の軍勢はもちこたえることが叶わず、わずか半日で落城し、豊臣方軍勢の小田原侵入を許すこととなりました。城の守りを任されていた戦国武将松田康長がこの「山中城の戦い」の直前に認めた書状が、神奈川県足柄下郡箱根町元箱根に鎮座する箱根神社に伝わっています。

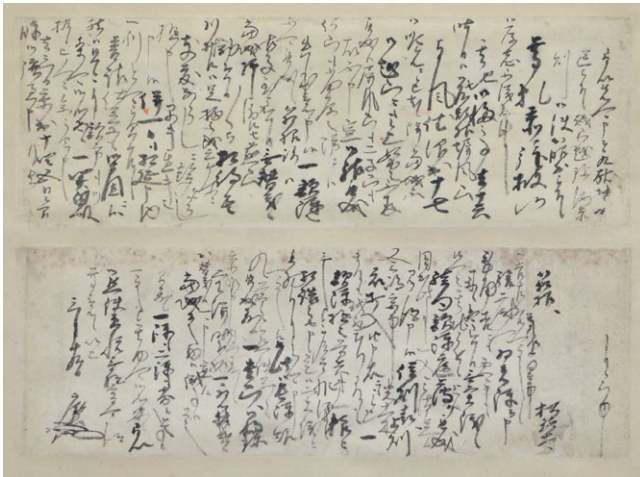


山中城城将松田康長とその一族 松田康長は、天文6年(1537)の生まれといわれ、北条氏康(3代当主)・氏政(4代)・氏直(5代)の三代にわたって仕えました。祖父頼秀と叔父盛秀は伊勢宗瑞(北条早雲)以来の家臣であり、父康定(頼秀の次男)は氏綱(2代当主)・氏康に仕えています。盛秀の嫡男憲秀は、小田原衆(本拠小田原城付きの家臣)の筆頭となった人物で、康長とは従兄弟関係にあたります。つまり北条氏の西の防衛ラインである山中城の守りを任された松田康長という人物は、譜代の家臣松田氏の傍流の嫡男、という北条氏にごく近い立場の人間でした。康長は山中城の戦いで戦死を遂げますが、天文6年生まれという説が確かであれば、そのとき54歳だったことになります。

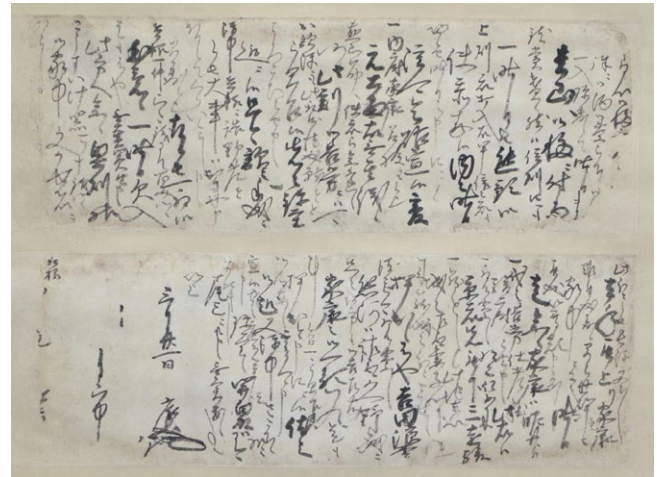
黄瀬川畔に陣取る豊臣方軍勢 天正17年(1589)11月、豊臣秀吉から北条氏当主氏直へいわゆる「宣

戦布告状」が送りつけられ、豊臣・北条両者の対決は避けられないものとなりました。翌天正18年2月、豊臣軍のうち、東海道進軍を任された先発隊として、まず徳川家康と羽柴秀次(秀吉の甥)が、続けて織田信雄(信長の息子)が出陣し、3月1日に秀吉が京都の聚楽第を出立、北条氏討伐が始まります。3月2日には家康が北条領・徳川領の境である黄瀬川の河畔の惣河原(長泉町)に着陣し、翌3日には東海道軍大将を任された秀次が沼津に着陣しています。27日に秀吉が沼津の三枚橋城に到着し、29日早朝に山中城の戦いの火蓋が落とされました。下の二つの古文書は、その戦いの直前、黄瀬川畔に陣取りする豊臣方の軍勢の様子を窺いながら、山中城城将松田康長が箱根権現(現箱根神社)の別当(長官)に宛てて認めた書状です。

松田康長の書状



天正18年3月19日松田康長書状(箱根神社所蔵)



天正18年3月21日松田康長書状(箱根神社所蔵)

松田康長から箱根権現別当へ、3月19日と21日の2度書状が送られています。別当から陣中見舞いとして酒・茶等が贈られたのをうけ、お礼とともに、目下の状況を伝える内容になっています。以下、康長の目を通して見た豊臣方の軍勢の状況について、少し詳しくみていきます。

19日付の書状には、「一、敵陣の様子」として、本日も変わりなく、自分たちは今日こそ来るか、今日こそ来るかと待ち構えていて、その準備に声を枯らしており、城の普請(土木工事)や戦準備は堅固である、と記しています。また「一、関白殿(豊臣秀吉)去ぬる三日京を出づ」として、秀吉が14~15日にも隣国駿河国(徳川家康の領国)に着陣するという報せを受けたが、今日になっても着いていない。そのうえ敵陣は手薄になっているようにも見える、と述べています。そして「一、敵陣極々労兵」として、敵兵は疲労しているようで、なにより兵糧に困窮しているというので、長期戦にはなりがたいだろう、という見解を示しています。

21日付の書状には、「一、陣中兵糧に詰まる」として、敵兵は野老(イモ)を掘って食うほどの状況に陥っているといい、1升をびた銭100文で売る兵糧売りも姿を消し、汁器1杯を10銭で売る雑炊売りくらいしかいなくなっているらしい、という情報を示して、長期戦にはいよいよなりがたく、世は早々に静かになるだろう、といった見解が述べられています。

北条氏領国の入口、東海道の守りを任されるほどの武将・松田康長をもってして、このように戦況を見誤らせるに至った上述の情報は、徳川方が放った間者によってもたらされた、とする見解があります。「山中城の戦い」の直前の状況を把握できるとともに、戦場で飛び交う情報の見極めが、いかに大事であったかを窺える資料です。

(学芸員 柿島綾子)

三島の歴史とジオポイント・8

—根府川通見取絵図に描かれた祐泉寺の石燈籠—

三嶋大社の門前に位置する市ヶ原町(現・大社町の一部)は下田街道の起点です。下田街道が重要視されるようになったのは黒船来航以降です。東海道分間絵図(1690年)には「伊東への道」と記され、伊豆東海岸への道としています。幕府はこの道を東海道の脇街道の一つと認識し、三島～熱海～湯河原～根府川を繋ぐ、「根府川通」と名付け、根府川に関所を置いています。

幕府がまとめた「根府川通見取絵図」(五街道とその脇街道の詳細な絵図の一部・1806年)では、市ヶ原町は三嶋大社門前から筋違石橋の間です。石橋の脇には石燈籠が一基描かれています。この石燈籠が現存するのではないかと2011年に調べた所、「祐泉寺」(大社町5-13)の境内にありました。

燈籠は火袋から上部が失われていますが、電燈が付けられ、現在も境内を照らしています。

燈籠の基礎部分は約1mと高く、「安全目標燈籠」(街燈や燈台)の特徴を示しています。

竿(長さ75cm)の彫り込みには「文化元年甲□12月吉日」(1804年)、「当驛市原町」、「秋葉山常夜□」とあります。明らかに市ヶ原町の街灯です。

燈籠の基礎最下部は頑丈な三島溶岩製(約1万年前の富士火山の活動で三島まで流下した溶岩)です。

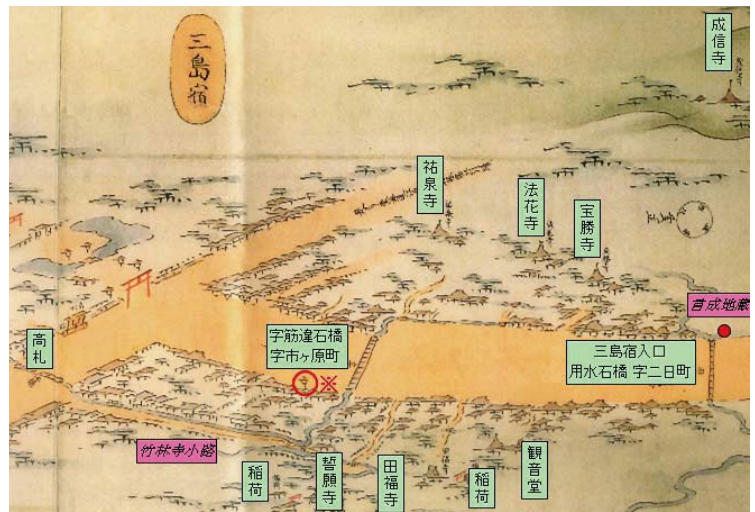
基礎上部・竿・中台は長岡凝灰岩中～下部層(数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰や火山砂が固結したもの)製です。

凝灰岩は風化しやすく、本燈籠の竿も下部が剥がれ、彫り込みの一部が失われています。中台は逆さまに設置されています。

いつごろ祐泉寺に移設されたのか、ご住職に伺いましたが不明でした。祐泉寺には、かつて街道沿いにあった「市ヶ原廃寺・塔礎石」も移されています。これらは明治以降の街道拡幅工事の際に移築されたものと思われます。

宝珠・笠・火袋が欠失しているのは、安政地震(1854年)や北伊豆地震(1930年)の際に倒れ、破損したためでしょう。

根府川通見取絵図が描かれた当時、三島宿に街灯は少なく、燈籠は設置直後で非常に美しく目立っていたでしょう。現状は不格好ですが、現役を保つためには仕方がない改造です。満212才の本燈籠には、いつまでも三島の街を明るく照らし続けてもらいたいものです。(郷土資料館運営委員・増島淳)



「根府川通見取絵図」(加筆)に描かれた燈籠の位置(※印)(東京国立博物館蔵)



祐泉寺境内の燈籠

楽寿園の歴史5

楽寿園の庭園—小松宮彰仁親王が愛された京文化の庭

三島市民の憩いの場所、楽寿園は明治中期に小松宮彰仁親王が別邸として建物、庭園を造営されたものです。元は、富士山麓に降った雨や雪が伏流水となり湧出してできた小浜池を中心とする山林でした。江戸から明治の頃には、七面堂をはじめいくつかの堂宇が散在していました。この霊地をどのように彰仁親王は変えていったのでしょうか。

昭和60年代初頭、郷土資料館で楽寿園全般について調査したときに、庭園についても関係者から聞き取りをしましたので、報告します。

まず、作庭した人については、誰も知りませんでした。唯一記載されていたのは『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 三島・修善寺』戸羽山瀚(昭和54年、国書刊行会)で「設計は宮内省技師が当り、作庭には京都の名工植治みづ自からの作といわれる」と書かれています。これは京都の有名な作庭家で明治に活躍した七代目小川治兵衛うえじを示すと思われます。現在、京都にある「植治」には小松宮別邸の造園の記録は残されていません。

さて、楽寿園の庭の特徴としては、次のとおりです

- 池泉回遊式庭園であること。湧水の小浜池を生かし、園路を配している。
 - ・深山幽谷・樹林・草原・海浜の風景を散策しながら楽しめる。
- 芝生の庭を設けていること。(明治に西洋から初めて取り入れられた。京都「無鄰菴」が有名)
- 小浜池の水源を二分していた堤を拡幅して遊歩道とし、松・もみじ・梅を植栽したこと。
 - ・「小松の堤」と称される。別邸から眺めると横に伸びる水際線により広さが強調される。(修学院離宮の上離宮・浴龍池の堤が想起される)
- 名石を配し、溶岩も生かしていること。
 - ・天竜の青石を配置。(大場平太郎の寄進という)
 - ・江戸城の石垣用の石を配置(沼津の我入道がにゅうどう沖に沈んだ船から引き上げさせたという)楽寿の間廊下東側(「我入道」と刻まれ「われみちにいる」と読む)、池の舟寄せ、深池の東側、郷土資料館前など。
 - ・京都三条大橋を架け替えたあとの旧石材を島へ渡る石橋等に再利用したという。(京都平安神宮庭園の跳び石も同じく三条大橋の石材を再利用している)
 - ・庭の各所に富士山からの溶岩の露出が見られるが、樹林や苔をそのまま生かしている。
- 深池を掘り深山幽谷の趣を添えたこと。
 - ・彰仁親王が陸軍師団に命じ、ダイナマイトを爆発させ深池としたという。昭和40年代まで、池の壁面からは白糸のような細い滝が落ちていた。
- 池に島を作り、園内に趣きある石灯籠を配置した。
 - ・広瀬神社のある宮島のほかに新しく作った島で、池に景色の変化をもたらしている。鞍馬灯籠(鞍馬石)、濡れ灯籠(中国製の大理石)、コンクリート製灯籠など各種あり。
- 京都より、松・もみじ・竹・梅・椿などを取り寄せ、庭や堤、別邸周辺に植栽している。
 - ・芝生にある赤松なども。秋の紅葉は京都に劣らない。



宮島への石橋(京都三条大橋の旧石材)

仁和寺で育ち、京都の自然を愛された宮様は京都の文化を庭園にも取り入れていました。桂離宮・修学院離宮などの離宮文化の香りが楽寿園に残されています。

(学芸員 福田淑子)

ふるさと講座「頼朝ゆかりの地巡りツアー」開催報告

- 開催日時 ①平成28年9月17日(土)9時00分～14時00分
②平成28年10月13日(木)8時45分～16時00分
- 見学地 ①三嶋大社、法華寺、妻塚^{さいづか}観音堂、間眠^{まどろみ}神社、周福寺、手無地蔵堂
②守山中世史跡群（史跡北条氏邸跡、伝北条政子産湯の井戸、守山八幡宮、願成就院）、葦山郷土資料館、蛭ヶ島公園、六万部寺、かなみ仏の里美術館
- 参加者 ①29人、②22人



三嶋大社見学の様子

企画展「源頼朝と伊豆一史跡と伝承」の開催に合わせ、三島市内の源頼朝に関する史跡・伝承地を巡る①ウォーキングツアーと、函南町及び伊豆の国市の源頼朝に関する史跡・伝承地を巡る②バスツアーを開催しました。ウォーキングツアーでは、三嶋大社宝物館の奥村学芸員より中世～近世の三嶋大社の境内の変遷などについてお話しを伺い、周福寺では同寺に伝わる二幅一對の地獄絵を見学させていただくなど、貴重な機会となりました。バスツアーでは、発掘に携わった伊豆の国市文化財調査員の池谷氏から北条氏邸跡ほか守山周辺の遺跡について詳しく解説いただいたほか、願成就院のご住職、葦山郷土資料館学芸員、かなみ仏の里美術館館長など、各地で専門家によるお話しをじっくり伺うことができ、大変充実した一日となりました。

郷土資料館文化財ボランティア講座

郷土資料館では、郷土資料館ボランティアの会、三島宿研究会、三島古文書読習会の地域の文化財に関わる3団体とともに「三島地域資料研究会」を立ち上げ、古文書や石造物など地域の文化財を市民の皆さんと協働で保護・活用していくための事業を始めました。初年度は文化庁「平成28年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の助成を受け、ボランティア講座、古文書の整理・調査活動、石造物の調査活動などを実施しています。

| 回 | 日にち | 内容 | 講師 | 参加者 |
|----|----------|-------------------|----------------------|-----|
| 1 | 7/2(土) | 開講式、三島の歴史① 原始～中世 | 文化振興課職員、館職員 | 40 |
| 2 | 7/2(土) | 三島の歴史② 三嶋大社の歴史 | 奥村徹也氏（三嶋大社宝物館） | 39 |
| 3 | 8/6(土) | 三島の歴史③ 近世（三島宿） | 館職員 | 34 |
| 4 | 8/6(土) | 石造物調査① 北駿・伊豆の石造物 | 井上輝夫氏（元富士山資料館） | 30 |
| 5 | 9/10(土) | 伊豆の歴史 江川英龍と反射炉 | 橋本敬之氏（(特非)伊豆学研究会） | 36 |
| 6 | 9/10(土) | 古文書整理① 古文書整理の最初歩 | 橋本敬之氏（(特非)伊豆学研究会） | 37 |
| 7 | 10/1(土) | 石造物調査② 中郷地域の歴史と民俗 | 館職員 | 22 |
| 8 | 10/1(土) | 石造物調査③ 石造物調査の実際 | 山本隆雄氏（錦田郷土研究会） | 21 |
| 9 | 10/8(土) | 古文書整理② 古文書整理の進め方 | 西村慎太郎氏（(特非)歴史資料継承機構） | 37 |
| 10 | 12/17(土) | 三島の自然① 三島の地理的特徴 | 加藤雅功氏（日本大学） | — |
| 11 | 12/17(土) | 三島の自然② 楽寿園ジオツアー | 斎藤幸蔵氏（伊豆半島ジオガイド） | — |

講座には51人の応募があり、三島の歴史や民俗だけでなく古文書や石造物などの地域資料が次第に失われ、調査研究の担い手も減少しているといった危機的な状況や資料の具体的な調査方法・注意点などについて学んでいます。10月以降は講座で学んだことをもとに、古文書整理(32人登録)、石造物調査(22人登録)に分かれて、実際の整理・調査活動を始めています。今年度は基礎的な講座に時間を充てることになりましたが、次年度以降も活動を継続していきますので、その成果に期待してください。



講座の様子(第5回)

郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成28年7月から10月までに行った事業をご紹介します。

| 日程 | 郷土教室 | 内容 | 参加者 |
|-----------|-------------------------|--------------------------------------------------|------|
| 7月24日(日) | 楽寿園の自然 | 溶岩観察、葉っぱの拓本 ^{たくほん} づくり、どんぐり工作 | 67人 |
| 7月30日(土) | 昔のくらし | 蚊帳 ^{かや} 体験、昔の夏の道具の解説・昔語り | 57人 |
| 7月30日(土) | 機織り ^{はたお} 体験 | 裂き織りの体験 | 9人 |
| 8月4日(木) | 型染め体験 | 防染 ^{ほうせん} を紙用にアレンジした方法でカードを作る | 31人 |
| 8月10日(水) | 古代のくらし | 勾玉 ^{まがたま} づくり、火おこし体験、土器当てクイズ、弥生人風衣装を着よう | 36人 |
| 8月20日(土) | クラフト作り | 楽寿園で採集した枝・どんぐりを使って自由に工作する | 52人 |
| 9月4日(日) | 江戸時代の三島宿 | 三島の昔話の紙芝居、旅人風装束を着てみよう、三島宿を中心とした展示ガイド | 88人 |
| 9月11日(日) | 昔のあそび | ブンブンごま作り、こま・けん玉であそぼう | 93人 |
| 10月22日(土) | ミニ藁 ^{わら} ぼうき作り | ワラを使ってミニぼうきを作る | 132人 |
| 10月29日(土) | 昔のあそび大会 | 昔のあそび(こま、けん玉、お手玉、おはじき、メンコ、すごろく、ビー玉など)三島の昔話の紙芝居 | 68人 |



8/4

型染め体験

ポンドをのばして…。絵の具を塗ってポンドを洗い落としたら完成!!



8/20

クラフト作り

枝やどんぐりを使って世界に1つのステキな作品ができました。

10/29



昔のあそび大会

めんこで遊びました。カいっぱい「えいっ!!」

10/22



ミニ藁ぼうき作り

ワラを束ねて…。上手にできたかな?

1月～3月の郷土教室

10:00～12:00

13:00～14:30

ご参加

お待ちしております!!

| 日程 | 郷土教室 |
|----------|----------------------------------------|
| 1月7日(土) | するがたご 駿河凧を作ろう ※要申込み、13:00～16:00 |
| 1月21日(土) | リリアン編みで2017年の干支「トリ」を作ろう ※要申込み、10:00～正午 |
| 2月18日(土) | 昔のどうぐ(石臼、鯉節削り、和菓子の木型などの体験) |
| 2月23日(木) | 遊んで学ぼう富士山デー(富士山の溶岩観察、富士山にちなんだカルタ) |
| 3月11日(土) | 江戸時代の三島宿(たてばんご 立版古を作ろう、三島宿を中心とした展示ガイド) |

寄贈資料の紹介

平成28年7月から11月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。

| 寄贈者 | 資料名 | 点数 |
|---------------|-----------------------------|-----|
| 綿文 (三島市) | 絹製の寝具(夜着・敷布団・掛布団、明治時代中頃のもの) | 1点 |
| 小畑 美枝子氏 (三島市) | 土器 | 1点 |
| 長谷川 忠義氏 (三島市) | 軍服上着、古写真(満洲国皇帝溥儀) | 2点 |
| 小林 孝氏 (三島市) | 農具(おかいこカゴ、ずりかん、田下駄など) | 11点 |

刊行図書のご案内

近刊紹介

『源頼朝と伊豆一史跡と伝承』

販売価格300円(A5版32頁)

三島市やその周辺地域に残る頼朝ゆかりの史跡、伝承地を紹介する冊子を刊行しました。豊富なカラー写真で頼朝ゆかりの寺社などを紹介し、合わせて各地に伝わる伝承や逸話を詳しく解説。地図とアクセス情報付きなので史跡めぐりにぴったりの一冊です。



平成28年度 博物館実習

郷土資料館では、学芸員資格取得のために必要となる博物館実習を毎年実施しています。今年は8月2日(火)から12日(金)までの期間で行い、参加者は松本 侑子さん、村本 隼さん、峯田 力さん、小山 萌さんの4名でした。郷土資料館が所蔵している古文書や民具などの資料の取り扱いについての講習を受けてもらってから、古文書の整理・収蔵庫内の清掃・民具のクリーニング・西小学校での民具の展示など様々な場面で実際に資料を取り扱う仕事に取り組んでもらいました。各自これまでに学習してきたことを踏まえて、慎重かつ積極的に取り組む姿がみられました。また、期間中には郷土教室「古代の暮らし」があり、小さな子どもたちを相手に勾玉作りや火起こしの指導をしてもらいました。資料の取り扱いとはまた違った苦勞とやりがいがあったようです。



郷土教室で指導を行う実習生



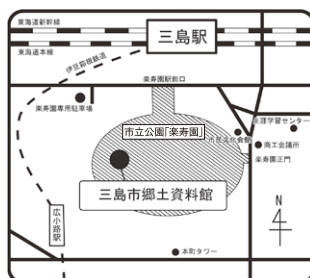
郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
午前9時～午後5時(4月～10月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
300円がかかります。15歳未満は無料、
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

郷土資料館だより

Vol.39 No.2(第116号)

発行日 平成28年12月15日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>